

## ～野菜の消費行動について～

－『野菜・果物の消費行動に関する調査(2009年調査)』速報－

### 【調査概要】

|         |                                |                      |                      |                      |
|---------|--------------------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| ■調査方法   | インターネットリサーチ                    |                      |                      |                      |
| ■調査地域   | 全 国                            |                      |                      |                      |
| ■調査主体   | 社団法人 JA総合研究所                   |                      |                      |                      |
| ■実施機関   | 株式会社 インテージ                     |                      |                      |                      |
| ■調査日時   | 2009年7月23日(木)～7月28日(火)         |                      |                      |                      |
| ■調査対象   | 全国の主婦・単身者男女                    |                      |                      |                      |
| ■有効回答者数 | インテージネットモニター n=1,286 単位:人(構成比) |                      |                      |                      |
|         | 合 計                            | 主婦                   | 単身女性                 | 単身男性                 |
|         | 20代以下 158( 12.3)               | 59( 6.5)             | 55( 29.1)            | 44( 24.0)            |
|         | 30代 241( 18.7)                 | 185( 20.2)           | 32( 16.9)            | 24( 13.1)            |
|         | 40代 363( 28.2)                 | 312( 34.1)           | 26( 13.8)            | 25( 13.7)            |
|         | 50代 273( 21.2)                 | 218( 23.9)           | 30( 15.9)            | 25( 13.7)            |
|         | 60代 146( 11.4)                 | 90( 9.8)             | 24( 12.7)            | 32( 17.5)            |
|         | 70代以上 105( 8.2)                | 50( 5.5)             | 22( 11.6)            | 33( 18.0)            |
|         | TOTAL 1,286( 100)<br>( 100)    | 914( 100)<br>( 71.1) | 189( 100)<br>( 14.7) | 183( 100)<br>( 14.2) |

社団法人 JA総合研究所(略称:JA総研、所在地:東京都千代田区)は、生産農家等の生産・販売計画作成の参考となるデータを提供するため、農畜産物に関する消費者の購買行動・食品に関する知識・嗜好などを調査・分析しています。

今までに公表した調査:

- ◎「米の消費行動に関する調査」(平成20年3月公表)
- ◎「野菜の消費行動に関する調査」(平成20年6月公表)
- ◎「米の消費に関する調査」(平成20年10月公表)
- ◎「肉の消費行動に関する調査」(平成20年11月公表)
- ◎「果物の消費行動に関する調査」(平成21年2月公表)
- ◎「米の消費行動に関する調査・2009年調査」(平成21年6月公表)

調査結果は、JA総研のホームページ(<http://www.ja-so-ken.or.jp>)でご覧いただけます。

～本件に関するお問い合わせ先～

社団法人 JA総合研究所 基礎研究部 主席研究員 濱田亮治 TEL 03-5214-0841

## ＜調査結果のまとめ＞

9割の人が野菜は好き。それでも6割の人が野菜不足を感じています。食べる野菜の種類が少ないことが、不足を感じる一番の理由となっています。野菜不足を感じている人は、不足を感じていない人の半数の野菜しか料理に使っていないことが調査でわかりました。

昨秋以降の景気低迷を受けて、野菜の購入時に価格の安さを求める人が増えています。輸入食品の事故を契機に高まった“国産志向”は相対的に後退し、“価格重視”の姿勢が強まっています。

4割近い人がプランターや家庭菜園で野菜の栽培に取り組んでいます。うち2割強は今年から栽培を始めています。若年層では「食費の節約」が目的の人も多くなっていますが、一方で植物を育てることによる癒し効果、子供の教育への効果を求める人も多く見受けられます。

8月31日は『野菜の日』。夏バテで食欲減退の方も多いたはず。身体の調子を整えるビタミンや栄養素満載の夏野菜をいっぱい食べて、厳しい残暑を跳ね返していただきたいと思います。

### ●野菜は好き？ 嫌い？ …“嫌い”は少数派、女性は“好き”の程度が高い

9割超が「好き」「どちらかと言えば好き」と回答。「嫌い」「どちらかと言えば嫌い」は少数派。女性は「好き」の割合が高い。

### ●野菜を食べる頻度は？ …「ほぼ毎日」は主婦で8割、単身男性は半数にとどまる

野菜を「ほぼ毎日」食べる人は、主婦で8割。単身女性6割弱、単身男性は48.1%で半数を割る。

### ●あなたは「野菜不足」？ …6割が「野菜不足」「野菜は不足気味」

約6割が「野菜不足」「野菜は不足気味」と回答。「野菜不足ではない」は9.8%。野菜を「ほぼ毎日」食べる人でも「野菜不足ではない」「野菜は不足していない方」は半数にとどまり、“食べる量が少ない”と思っている人が多い。

### ●野菜の購入先は？ …「スーパー」が圧倒的。農産物直売所の利用者、東北・北関東で4割

「スーパー」で野菜を購入する人は96.8%、2位の「青果店／八百屋」(28.1%)を大きく引き離す。“地産地消”意識の高まりから注目される「農産物直売所」の利用者は、東北・北関東では約4割。全国9エリア中5エリアで購入先の2位に。

### ●野菜の購入時に重視する点は？ …“国産志向”後退、“価格重視”強まる

重視点のトップ5は、①新鮮さ ②安さ ③国産 ④旬 ⑤特売 の順。前回調査(08年4月)と比較して、「国産」が2位から3位に後退。替わって「安さ」が2位に浮上、「特売」もランク入り。“価格重視”の姿勢が強まる。

### ●買い物の予算は？ …食料品の総予算、4人に1人が“減らした”。外食等の予算は3人に1人

ここ半年間で4人に1人が食料品の総予算を減額。外食等の予算を減額した人は35%。野菜の購入予算も17.6%が減額。予算措置の状況は、野菜不足を解消する気持ちとは逆行。

### ●野菜を栽培している？ …約4割が野菜を栽培。今年から始めた人が22.6%。

4割近くが「プランター」「家庭菜園」「市民農園」等で野菜を栽培。栽培している人の22.6%が今年から栽培。「30代以下」では「食費の節約」が栽培する理由の一位に。

### ●食卓に登場した野菜は？ 買置きがある野菜は？ …家庭にある野菜、カレーの材料がトップ3

1日の食卓に登場した野菜の種類は、「野菜不足」を感じる人では平均4.1種類、「不足していない」人の平均8.3種類の半数。家庭にある野菜は、カレーによく使う野菜(玉ねぎ・じゃがいも・人参)がトップ3。

### ●野菜の喫食量の満足度は？ もっと食べるようになるきっかけは？

普段、食べている野菜の量や頻度に「満足／まあ満足」は53.6%、「もう少し食べたい／もっと食べたい(食べる必要がある)」は46.4%。もっと食べるようになる“きっかけ”は「野菜の価格が安くなれば」が1番。「自分の食習慣の変革」「調理する時間の捻出」も課題に。

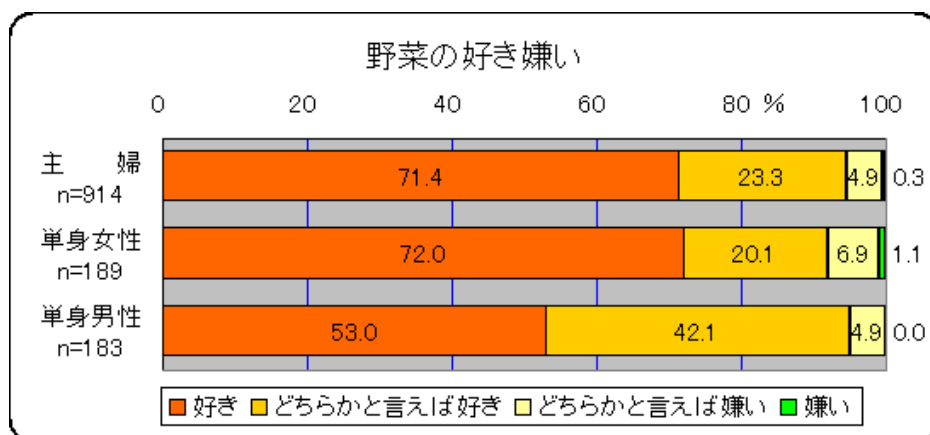
### ●企業が生産する野菜に対する見方は？ …購入時の重視点「新鮮さ」「安さ」にイメージが合致

大手小売企業等が自ら生産する野菜については、約6割が「機会があれば、買ってみたい」。流通経路が短い分の「新鮮」「安い」イメージは、野菜購入時の重視点に合致。企業の信頼性向上にも寄与。

<調査結果の概要>

1. 野菜は好き？ 嫌い？ …“嫌い”は少数派、女性は“好き”の程度が高い

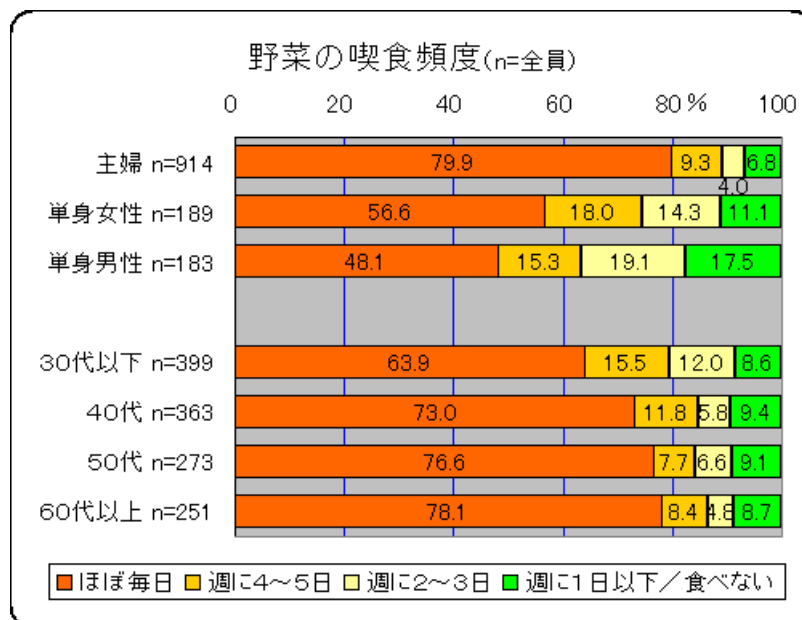
野菜の好き嫌いを4段階に分けて聞いたところ、「好き」「どちらかと言えば好き」は合わせて 92%～95%で、「嫌い」「どちらかと言えば嫌い」は1割に満たない少数派となっています。男女別に見ると、女性（主婦、単身女性）では単身男性に比べて「好き」の割合が20ポイント程度高く、女性の方が「好き」の程度が高い人が多くなっています。なお、男女とも年代間に差は見られませんでした。



2. 野菜を食べる頻度は？ …「ほぼ毎日」は主婦で8割。単身男性は半数にとどまる。

野菜をどのくらいの頻度で食べるかを聞いたところ、「ほぼ毎日」食べる人は主婦で約8割、単身者では主婦に比べて喫食頻度の低さが目立ち、「ほぼ毎日」は単身女性で 56.6%、単身男性は 48.1%と半数を割っています。

年代別に見ると、若年層ほど喫食頻度が低くなり、「ほぼ毎日」は30代以下と60代以上では15ポイント程度の差が生じています。

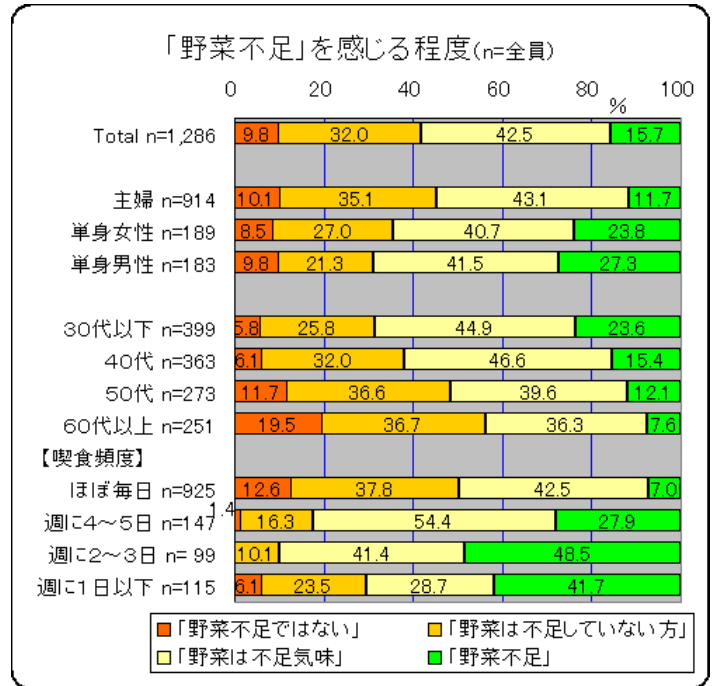


注)「ほぼ毎日」は「ほぼ毎食」「ほぼ毎日」を、「週に1日以下/食べない」は「週に1日」「月に2~3日」「月に1日程度」「年に数回」「全く食べない」をまとめたもの。

### 3. あなたは「野菜不足」？ …6割が「野菜不足」「野菜は不足気味」

日頃の食生活の中で自分自身は「野菜不足」だと思うか、4段階に分けて聞いたところ、「野菜不足ではないと思う」は 9.8%で、「野菜は不足していない方だと思う」(32.0%)と合わせても約4割にとどまり、残り約6割が「野菜不足だと思う」「野菜は不足気味だと思う」と回答しています。主婦/単身者別に見ると、単身者の4人に1人は「野菜不足」だと思っています。また、年代別では、年代が低いほど「野菜不足」を感じている人が多くなっています。

野菜の喫食頻度との関係を見ると、当然のことながら、喫食頻度が高いほど“野菜不足感”は解消されるものの、「ほぼ毎日」野菜を食べている人でも「野菜不足ではない」「野菜は不足していない方」は合わせて 50.4%と半数にとどまり、“野菜を食べる量そのものが少ない”と思っている人が多い状況がうかがえます。



#### 3-1. 野菜は不足していないと思う理由は？…摂取量を数量で把握している人は、まだまだ少数派

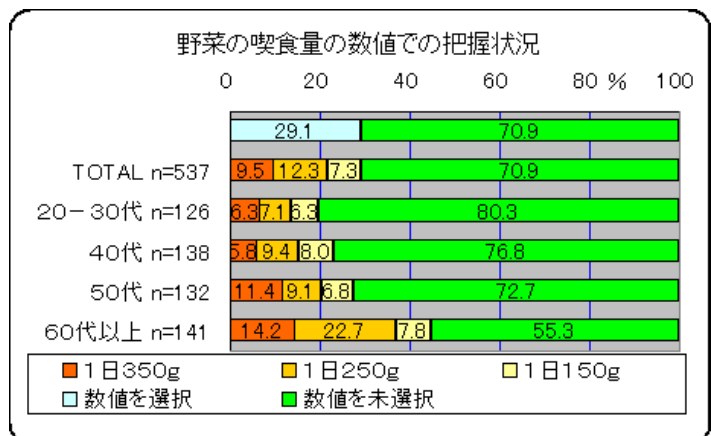
「野菜不足ではない」「野菜は不足していない方」と回答した人(n=537)に、不足していないと思う理由を15項目の選択肢から選んでもらったところ、

トップ5は、①ほぼ毎食、野菜料理を食べているから(64.8%) ②家庭の食事で、使用する野菜の量が多いから(64.6%) ③色々な種類の野菜を食べているから(45.6%) ④果物を良く食べるから(26.6%) ⑤野菜不足からくる身体の不調を感じていないから(19.7%)となっています。※( )内は、理由に挙げた人の割合(複数回答)

理由の上位には、喫食頻度の高さ・喫食量の多さ・種類の多さが挙げられています。

一方で、選択肢の中の具体的な数量(注)を選択した人は 29.1%で、喫食量を数値で把握している人は3人に1人とどまっています。その中でも“健康日本21”で掲げる成人 1人 1日当たりの野菜摂取量の目標である「1日に350gぐらいいは食べているから」を選択した人は 9.5%で、目標を下回る「250g」「150g」でも「野菜不足ではない」「野菜は不足していない方」と思っている人も同程度います。回答者の実際の摂取量は不明ですが、摂取量の目標数値の理解はあまり浸透していないようです。

注) 選択肢では「1日に350g(250g、150g)ぐらいいは食べているから」と3段階の数値を示した。設問全体は複数回答であるが、数量を示した選択肢は単一回答とした。



### 3-2. 野菜不足、不足気味になっていると思う理由は？

「野菜不足だと思う」「野菜は不足気味だと思う」と回答した人(n=749)に、不足していると思う理由を19項目の選択肢から選んでもらったところ、

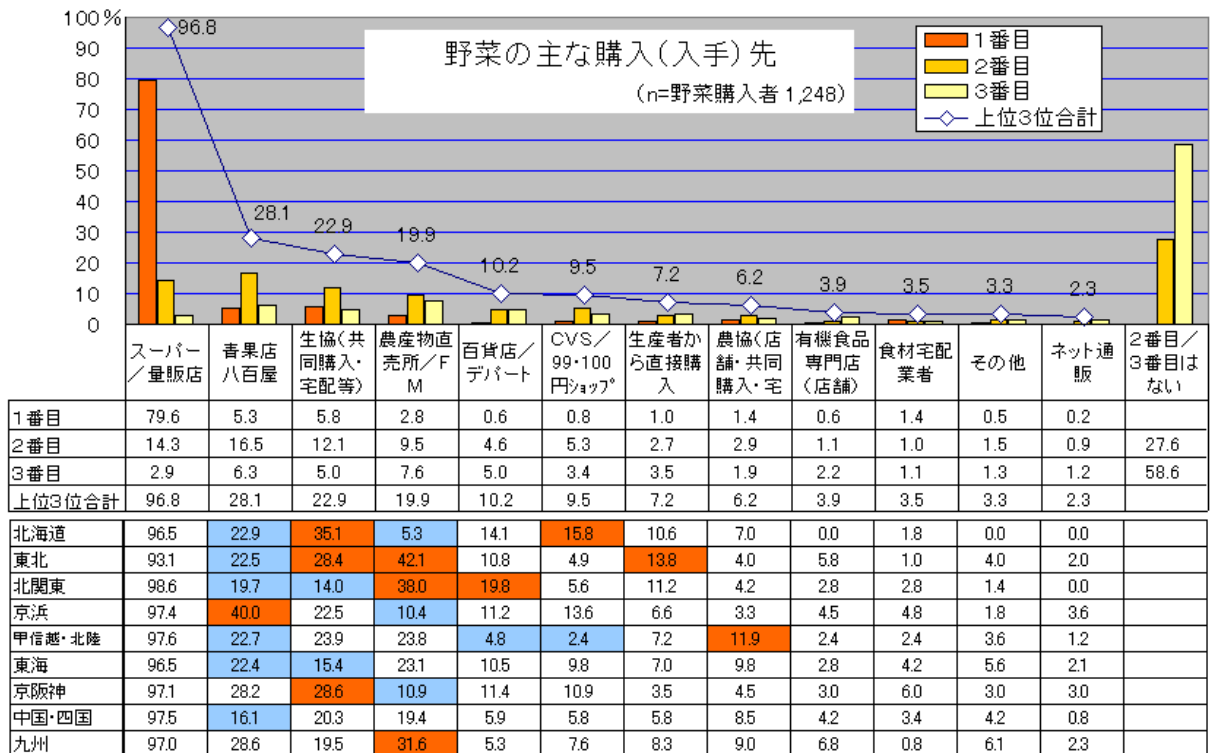
トップ5は、①食べる野菜の種類が少ないから(47.4%) ②家庭の食事で、使用する野菜の量が少ないから(36.7%) ③量の基準/どれだけ食べれば足りるのかが分からないから(34.6%) ④家庭の食事で、野菜を使った料理が少ないから(26.7%) ⑤「健康日本21」の目標摂取量に足りていないと思うから(26.4%) となっています。 ※( )内は、理由に挙げた人の割合(複数回答)

前項で“摂取量の数値的把握”“摂取量の目標数値の理解”が浸透していない点を述べましたが、不足していると思う理由でも、“摂取量の基準が分からない”が2番目に入っており、目標数値をあらためて示して行く必要がありそうです。

### 4. 野菜の購入先は？ …「スーパー」が圧倒的。農産物直売所の利用者、東北・北関東で4割

日頃、野菜を購入している人(n=1,248)に、主に野菜を購入する場所(業態別、上位3位)を聞いたところ、トップ3は、①スーパーマーケット/量販店(96.8%) ②青果専門店/八百屋(28.1%) ③生協(店舗、共同購入・宅配等)(22.9%)の順で、スーパーについてはほぼ全員が利用している結果となりました。

“地産地消”意識の高まりや“新鮮志向”“節約志向”を受けて注目が集まる「農産物直売所/ファーマーズマーケット(FM)」は全体では19.9%と4位になっていますが、九州で3割超、東北・北関東では4割前後の利用者があり、甲信越・北陸や東海でも僅差ながら「青果専門店/八百屋」を抑えてスーパーに次ぐ購入先となっています。



エリア区分: 北海道、東北(青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)、北関東(茨城、栃木、群馬)、京浜(埼玉、千葉、東京、神奈川)、甲信越・北陸(新潟、富山、石川、福井、山梨、長野)、東海(岐阜、静岡、愛知、三重)、京阪神(滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)、中国・四国(鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知) 九州(福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)

### 5. 野菜の購入時に重視する点は？ …“国産志向”後退、“価格重視”強まる。

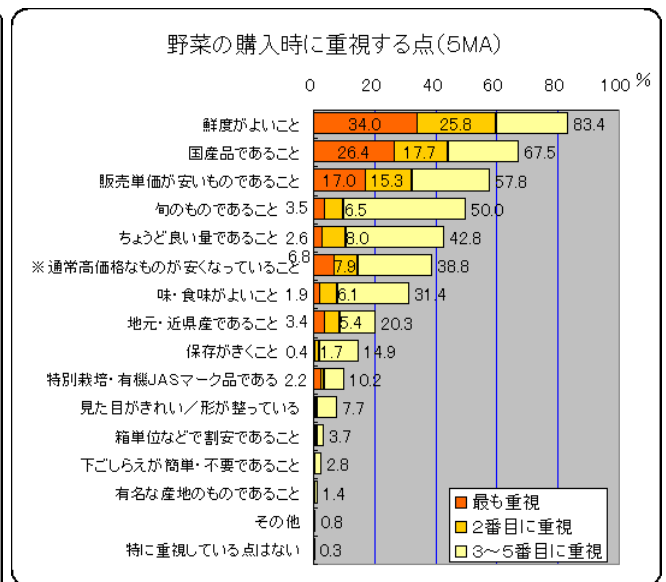
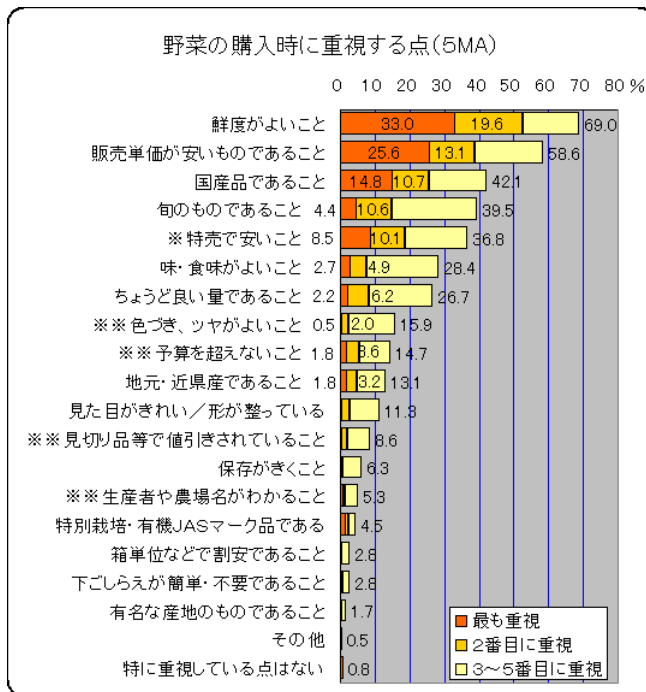
日頃、野菜を購入している人(n=1,248)に、野菜を購入する際に重視する点(複数回答、5つまで)を聞いたところ、トップ5は、①鮮度がよいこと(69.0%) ②販売単価が安いものであること(58.6%) ③国産品であること(42.1%) ④旬のものであること(39.5%) ⑤特売で安いこと(36.8%)となりました。前回調査(08年4月)では、①鮮度 ②国産 ③販売単価 ④旬 ⑤ちょうど良い量 の順となっていました。前回調査と「国産」と「販売単価」の順位が入れ替わり、「ちょうど良い量」に代わって「特売」がランク入りする形となりました。

前回の調査は、中国産ギョーザによる中毒事件直後で国産志向が強まっている時期でしたが、景気の低迷もあり、“国産志向”は相対的に後退し、一方で“価格重視”の姿勢が強まっていると言えそうです。

注) 前回調査とは、選択肢数が異なることから、率の比較は留意が必要です。

#### 【今回の結果】

#### 《 参考 》前回結果(08年4月)

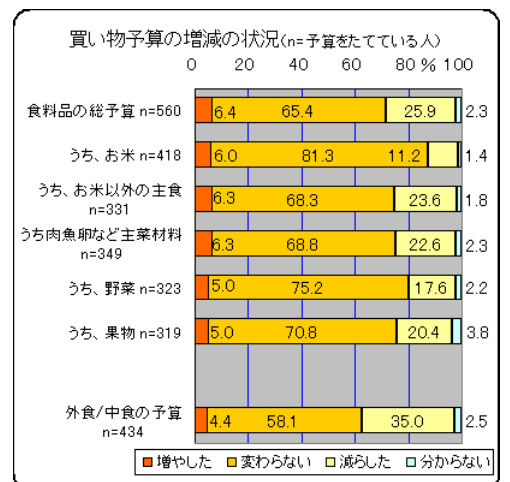


注) ※ 前回調査と選択肢の表現が異なるもの  
 ※※ 今回調査で新たに設けた選択肢

### 6. 買い物の予算は？ …食料品の総予算、4人に1人が“減らした”。外食等の予算は3人に1人

買い物等の予算をたてている人に、今年の1月頃に比べて予算を増やしたか・減らしたかを聞いたところ、「食料品の総予算」を減らした人は 25.9%で、4人に1人はここ半年で予算を減額していることがわかりました。「外食や外出先での中食の予算」については 35.0%、3人に1人が減額しています。

「野菜」にあてる予算は、食料品全体に比べると率は低くなるものの 17.6%が減額しており、予算措置の状況は野菜を増やしたい気持ち(詳細は後述)とは逆行しています。“価格重視”の姿勢は、予算のたて方からもうかがい知ることができません。



## 7. 野菜を栽培している？…約4割が野菜を栽培。今年から始めた人が22.6%

販売目的を除いて、野菜の栽培状況を聞いたところ、37.5%が何らかの形で野菜を栽培していることがわかりました。家庭(自分)で食べる目的で野菜を栽培している人は、主婦で43.3%、単身女性29.6%・単身男性16.4%となっています。

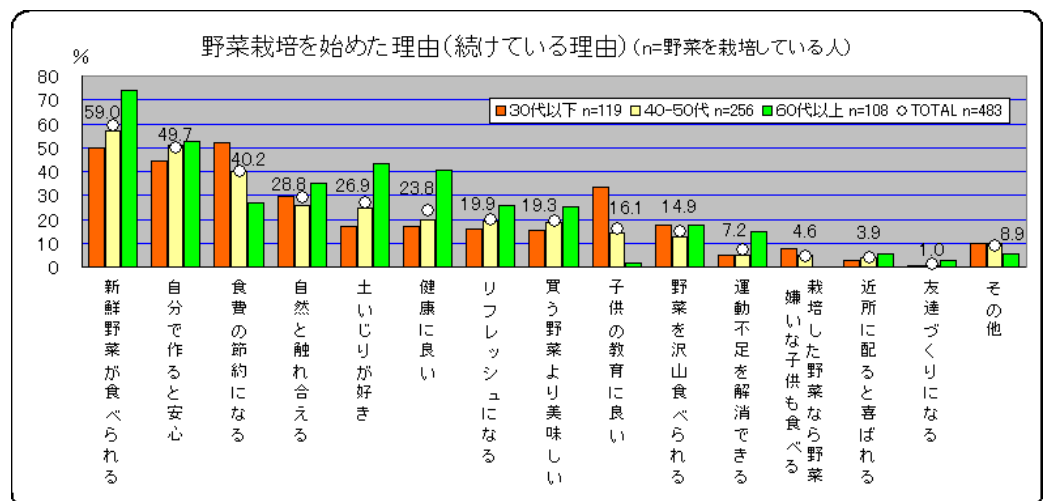
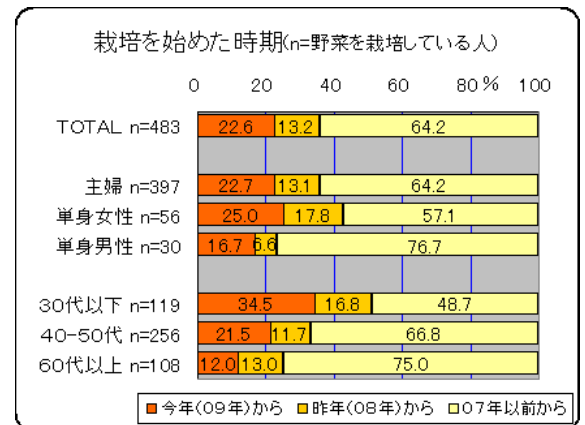
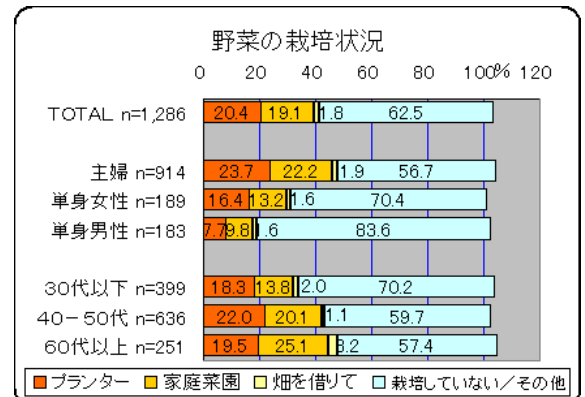
栽培している方法は、「プランターで栽培」(20.4%)、「家庭菜園(自分や実家の庭や畑)で栽培」(19.1%)がほぼ並んでおり、「知り合いから畑を借りたり、市民農園を借りたりして栽培」は1.8%となっています。(栽培方法は重複回答あり)

栽培を始めた時期を見ると、「今年(2009年)になってから」が22.6%、「昨年(2008年)から」が13.2%、「2007年以前から」が64.2%となっており、特に「30代以下」では昨年・今年から始めた人が半数を超えています。

野菜の栽培を始めた理由(栽培している理由)は、「新鮮な野菜が食べられるから」が59.0%で一番多く、次いで「自分が作った野菜は安心だから」(49.7%)、「食費の節約になるから」(40.2%)が続き、野菜そのものの評価や経済的な効果を挙げた人が多くなっています。

年代別に見ると、「60代以上」では「新鮮な野菜」(74.1%)・「自分で作ると安心」(52.8%)など野菜そのものを評価する理由に次いで、「土いじりが好き」(43.5%)・「健康に良い」(40.7%)・「自然と触れ合える」(35.2%)が続き、これら農作業の効能に関する理由が「食費の節約」(26.9%)を上回っています。「30代以下」では「食費の節約」(52.1%)が、僅差ながら「新鮮な野菜」(49.6%)・「自分で作ると安心」(44.5%)を上回っています。一方「子供の教育に良い」(33.6%)も理由の4番目となっており、「自然との触れ合い」(29.4%)も含めて野菜の栽培を通じた食農教育の効果も期待されています。「40-50代」は、「30代以下」と「60代以上」のほぼ中間となっています。

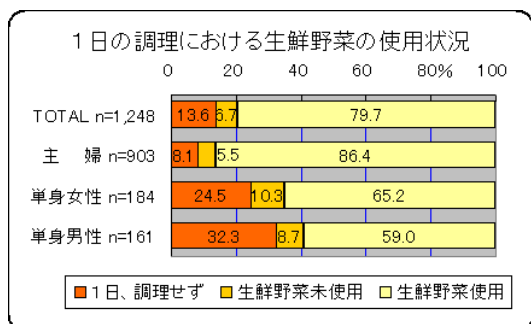
なお、件数は多くありませんが、「緑のカーテン」として栽培している回答も3件あり、省エネ・エコ目的も理由の一つとなっています。



### 8. 食卓に登場した野菜は？ 買置きのある野菜は？ …家庭にある野菜、カレーの材料がトップ3

日頃、野菜を購入している人(n=1,248)に、回答日当日にどんな野菜を調理に使ったか、また、どんな野菜の買置きがあるかを聞きました。「1日に全く調理をしなかった」人は13.6%、「調理をしたが生鮮野菜を使用しなかった」人は6.7%となっており、「野菜を調理に使った」人は79.7%という結果となりました。

また、「野菜の買置きがない」人は全体で6.9%(主婦2.7%、単身女性13.0%、単身男性23.6%)となっています。

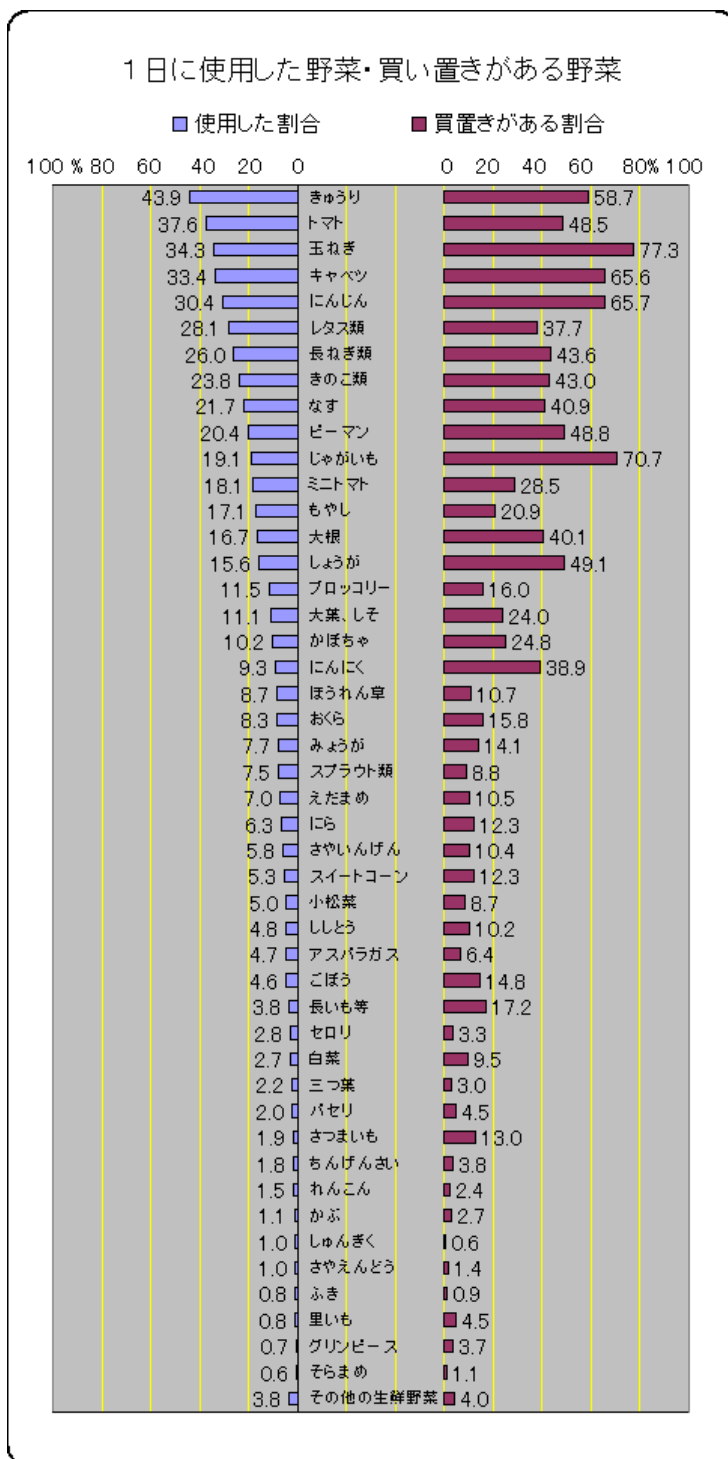


食卓に登場した野菜のトップ5は、夏野菜の代表格である①きゅうり ②トマトに次いで、③玉ねぎ ④キャベツ ⑤にんじんの順となっています。

また、買置きのある野菜のトップ5は、①玉ねぎ ②じゃがいも ③にんじん ④キャベツ ⑤きゅうり の順となっており、食卓に登場した野菜と買置きのある野菜を合わせて、「回答日当日に家庭にあった野菜」を見ると、トップ10は、

|           |       |
|-----------|-------|
| ①玉ねぎ      | 81.1% |
| ②じゃがいも    | 73.4% |
| ③にんじん     | 70.6% |
| ④キャベツ     | 70.5% |
| ⑤きゅうり     | 67.0% |
| ⑥トマト      | 56.3% |
| ⑦ピーマン     | 53.0% |
| ⑧しょうが     | 51.3% |
| ⑨長ねぎ、葉ねぎ等 | 49.4% |
| ⑩きのこ類     | 47.5% |

で、カレーの材料によく使われる野菜がトップ3を占める結果となりました。 ※表・グラフ中の数値は、野菜を購入している人(n=1,248)に対する割合



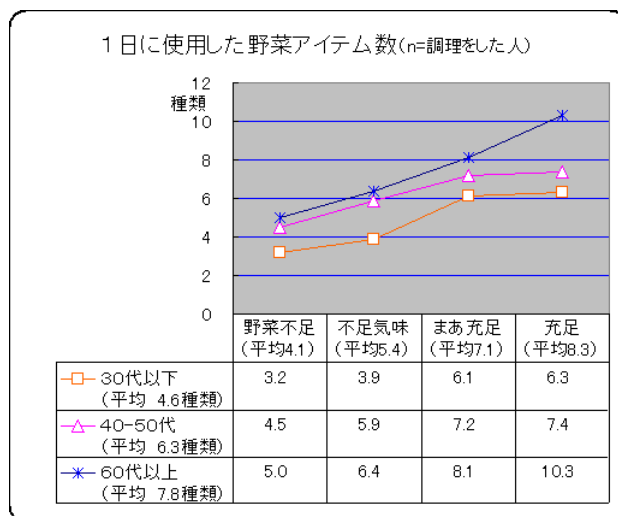
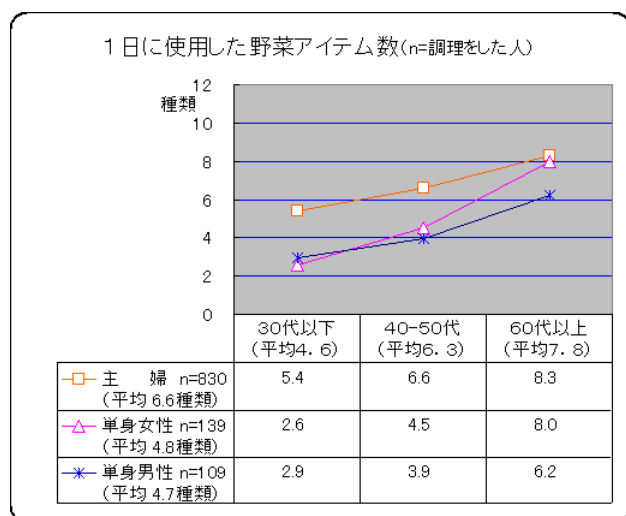
※選択肢の野菜は、「指定野菜」「指定野菜に準ずる野菜」および「家計調査」の小品目等を参照に46種類を提示した。



### 8-1 調理に使用した野菜のアイテム数は？ …「野菜不足」は4.1種類、「不足なし」では8.3種類

1日の調理に使用した野菜の種類をカウントすると、主婦は平均6.6種類、単身者は4.7~4.8種類となっており、主婦と単身者では2種類程度の差が出ています。使用した野菜の種類は年代が高いほど多くなり、30代以下と60代以上では3種類程度の差があります。

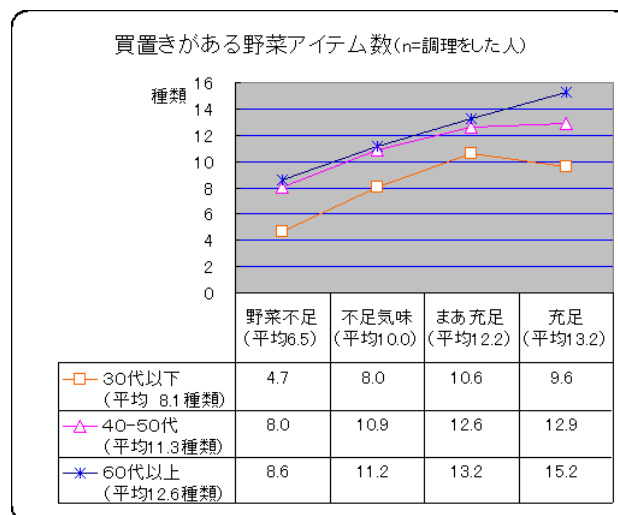
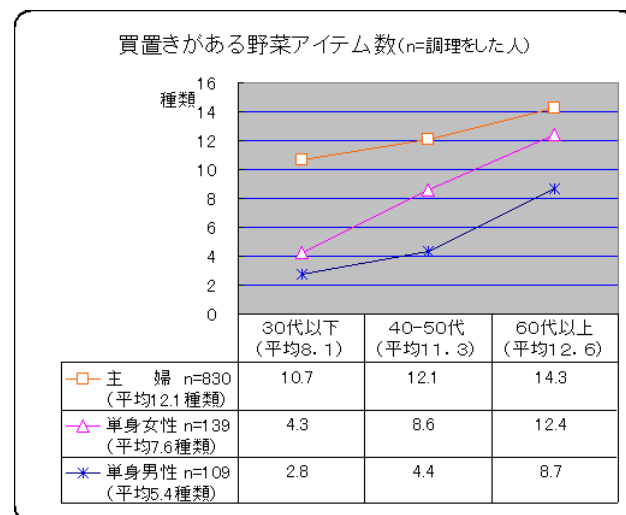
また、“野菜の不足感”との関係を見ると、「野菜不足だと思う」人の平均は4.1種類で、「野菜不足ではないと思う」人の平均8.3種類の半数となっています。野菜が不足していると思う理由に 47.4%が「食べる野菜の種類が少ないから」を挙げていますが、1日に使用した野菜の種類もそれを裏付ける結果となりました。



### 8-2 買置きがある野菜のアイテム数は？ …「野菜不足」は6.5種類、「不足なし」では13.2種類

同様に買置きがある野菜の種類をカウントすると、主婦は平均12.1種類、単身者は女性で7.6種類、男性で6.4種類と、使用した野菜の種類より差が大きくなっています。使用した野菜の種類と同様に、年代が高いほど買置きの野菜の種類も多くなり、単身者では特にその差が大きくなっています。

野菜が不足していると思う理由に「野菜を買うと結局余らせてしまうから/無駄になるから」を挙げた人は、単身女性 38.5%・単身男性 23.0%で、それぞれ不足している理由の3位・5位に入っています。その分、単身者や「野菜不足」を感じている人では、買置きの野菜の種類が少なくなっているものと思われます。



### 9. 野菜の喫食量の満足度は？ もっと食べるようになるきっかけは？

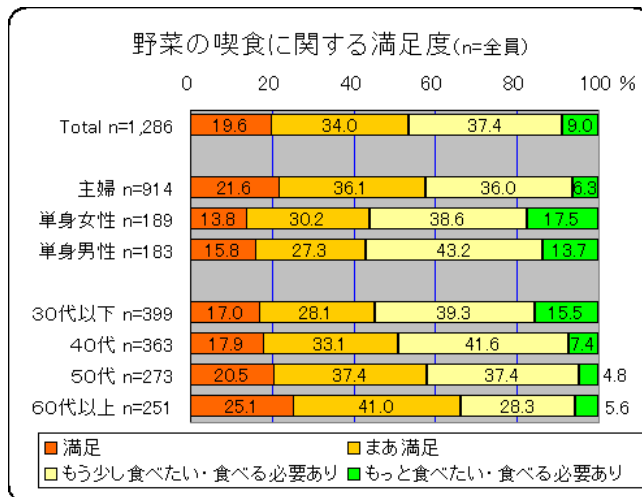
普段、食べている野菜の量や頻度についての満足度を4段階に分けて聞いたところ、「満足している」「まあ満足している」を合わせて“満足”は53.6%、「もう少し食べたい／食べる必要がある」「もっと食べたい／食べる必要がある」を合わせて“増やしたい”は46.4%となっています。主婦・単身者別では単身者で、年代別には年代が若いほど“増やしたい”割合が高くなっています。

野菜を“増やしたい”人(n=597)に、どういうきっかけがあれば野菜を食べる量が増えるかを聞いたところ、トップ5は

- ① 生鮮野菜の価格が安くなれば(53.3%)
- ② 手間をかけずにいっぱい野菜を食べられるレシピがわかれば(51.9%)
- ③ 自分の食習慣が変われば(35.5%)
- ④ 時間に余裕ができれば／料理をする時間が取れば(31.5%)
- ⑤ 収入が増えれば(27.0%)

⑤収入が増えれば(27.0%) となっており、3位から5位には他人からはなかなか支援しにくい“きっかけ”が並んでいます。

前項で述べたとおり、「野菜不足」を感じている人は、「野菜を買っても結局余らせてしまう」ことから買置き野菜や料理に使用する野菜の種類が少なくなっています。旬の時期や豊作等で野菜の価格が下落した時には、「手間をかけずにいっぱい食べられるレシピ」をタイムリーに提案していくことが求められています。



| 野菜をもっと食べるようになるきっかけ          | total<br>n=597 | 主婦<br>n=387 | 単身女性<br>n=106 | 単身男性<br>n=104 |
|-----------------------------|----------------|-------------|---------------|---------------|
| 生鮮野菜の価格が安くなれば               | 53.3           | 56.3        | 53.8          | 41.3          |
| 手間をかけずにいっぱい野菜を食べられるレシピがわかれば | 51.9           | 58.7        | 42.5          | 36.5          |
| 自分の食習慣が変われば                 | 35.5           | 33.9        | 40.6          | 36.5          |
| 時間に余裕ができれば／料理をする時間が取れば      | 31.5           | 32.0        | 41.5          | 19.2          |
| 収入が増えれば                     | 27.0           | 25.1        | 35.8          | 25.0          |
| 野菜の惣菜(サラダ、煮物等)の価格が安くなれば     | 26.5           | 18.6        | 34.9          | 47.1          |
| 野菜料理を作ってくれる人がいれば            | 24.3           | 18.1        | 20.8          | 51.0          |
| 加工野菜(カット・冷凍野菜等)の価格が安くなれば    | 22.8           | 18.1        | 24.5          | 38.5          |
| 市販のお弁当等に使用されている野菜の量が多くなれば   | 21.8           | 18.1        | 30.2          | 26.9          |
| 野菜の安全性がもっと高くなれば             | 19.1           | 24.3        | 12.3          | 6.7           |
| 料理に使う分だけ野菜を買えるようになれば        | 18.3           | 13.7        | 35.8          | 17.3          |
| プランターや家庭菜園等で野菜を自作するようになれば   | 13.9           | 15.2        | 17.9          | 4.8           |
| スライスしたり、刻んだりするのに便利な道具があれば   | 13.7           | 14.2        | 11.3          | 14.4          |
| 野菜をいっぱい使ったデザート類やお菓子があれば     | 12.4           | 13.7        | 12.3          | 7.7           |
| 食事を一緒に食べる人がいれば              | 11.6           | 4.9         | 26.4          | 21.2          |
| 加工野菜等に使用されている野菜が国産の野菜になれば   | 10.9           | 12.4        | 8.5           | 7.7           |
| 購入店で、洗浄・カットするようなサービスがあれば    | 9.5            | 9.3         | 8.5           | 11.5          |
| 下ごしらえを店内で行った野菜を売っていれば       | 6.2            | 3.4         | 10.4          | 12.5          |
| 野菜嫌いを克服できれば                 | 3.4            | 4.1         | 2.8           | 1.0           |
| 野菜の摂取を増やすよう医師など専門家の指導があれば   | 2.8            | 2.8         | 4.7           | 1.0           |
| その他                         | 2.0            | 1.6         | 3.8           | 1.9           |
| 特に思い当たらない／特になし              | 2.7            | 2.8         | 2.8           | 1.9           |

凡例: ■40%以上 ■30%以上 ■20%以上

## 10. 企業が生産する野菜に対する見方は？ …購入時の重視点「新鮮さ」「安さ」にイメージが合致

大手小売企業や外食企業が、農業生産法人等を立ち上げて自ら野菜の生産に取り組む事例が増えていきます。調査では、これらの企業が生産する野菜<sup>(注)</sup>に対する見方(8項目)について、イメージや考えにどの程度近いかを聞きました。

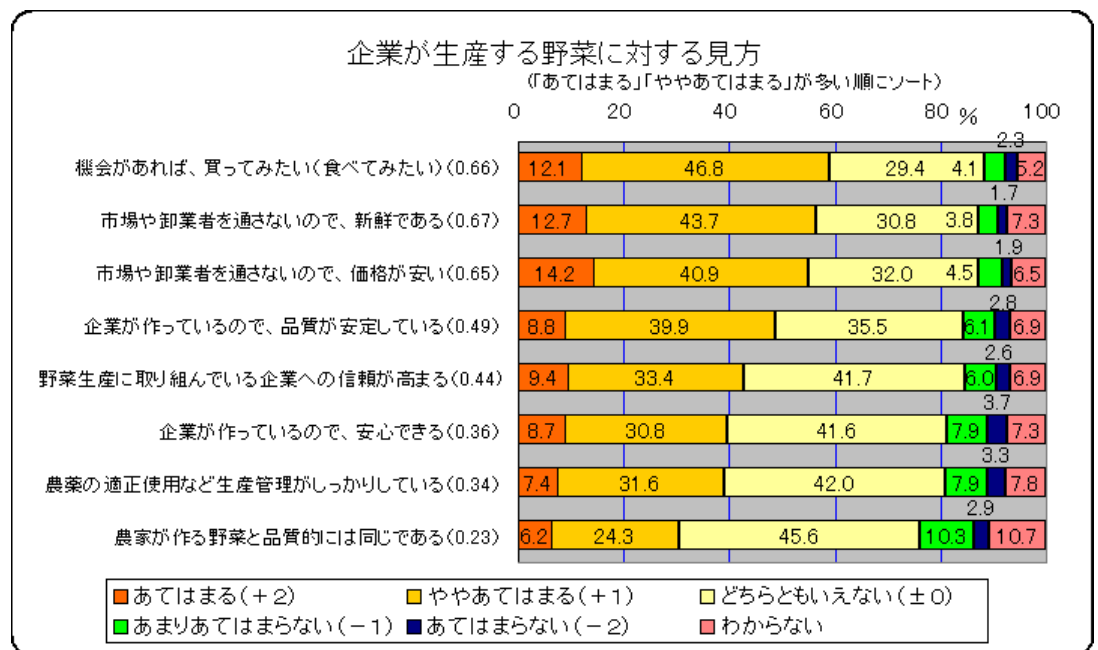
肯定的な回答(「あてはまる」「ややあてはまる」)が一番多かった項目は「機会があれば、買ってみたい(食べてみたい)」で、58.9%が買ってみたい気持ちを持っています。

次いで「市場や卸業者を通さないので、新鮮である」「(同様に)価格が安い」で、それぞれ 56.4%・55.1%が肯定的な考えを示しています。企業が生産する野菜は、野菜の購入時の重視点「新鮮であること」「販売単価が安いものであること」に合致したイメージを持たれていると言えます。

また、「企業が作っているので、品質が安定している」「(同様に)安心できる」「農薬の適正使用など生産管理がしっかりしている」も4割前後が肯定的な考えを示しており、農家等が作る野菜と品質的な違いがあるイメージが持たれています。

結果として、「野菜生産に取り組んでいる企業での信頼が高まる」を 42.8%が肯定しており、野菜の生産が企業イメージや信頼性の向上に寄与する可能性は高いものと思われます。

注) 植物工場ではなく、路地・ハウス栽培など通常の生産方法で栽培した野菜について質問した。



※( )内の数値は、「あてはまる」～「あてはまらない」を点数化した平均スコア

